

## 子どもたちの明日

## Children, Our Future

2007年9月 NO.83



バンキアン地区保育所 小林正典

## 目 次

- ② 特集！子どもたちが、おなかいっぱい食べられるように  
 ③ 『おはなし』卒園児の「今」  
 ⑤ 『おはなし』きれいに仕上がる嬉しい。シルク製品を縫っているのはわたし  
 ⑦ 対談：カンボジアの子どもたち イーデス・ハンソン氏×峯村里香  
 ⑧ 地域活動：東京海上日動あんしん生命保険株式会社／「写真家遠によるチャリティー展」寄付先がCYRFに決定

幼い難民を考える会(CYRF)は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に感動され、1990年に結成されました。子どもたちが心身とも健全に成長し、その彼らが人間らしい生活環境のことで自立できることが、難民を出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。



食育の第 小林正典



## 特 集

## 子どもたちが、おなかいっぱい食べられるように

—トロピエンスパイ村で朝ごはん支援がスタート—

朝6時、ブンペーから車で30分ほど走ればトロピエンスパイ村では、お腹の入ったビニール袋を手にぶら下げる子どもたちが、元気良く朝食していました。同じ頃、学校では、夜中の3時から文庫を始めたという給食係のおばさんたちが、エプロンに三角巾着で大張り切り、トロピエンスパイ小学校で、みんなが特に待った朝ごはんの支援のスタートです。

この地域では、保護者の収入が安定していないために、子どもが食事を抜くこともしばしばです。日雇いで働いてい

るために、その日の仕事がなければ物を買つこりが出来ません。CYRFは、子どもたちがせめて朝だけでもおなかいっぱい食べられるように、学校でねかゆの提供を始めたました。

初日。大振り切りの給食のおばさんたちに、先生たちも負けいません。手洗い指導などに、頼いっぽい声を振りあげていました。村の大人たちも、何が始まつたのか興味津々です。学校のファンズに集まってきて、朝にはんの様子を見物していました。

CYRFは、2005年にトロピエンスパイ小学校を譲り受けた施設です。建設・給食支援とも、会員・支会員の方々のご協力により実現しています。

## クローズアップ！ 子どもたちの家庭

ここに通つてくる子どもたちは、どんな家庭環境で生活しているのでしょうか？CYRFは、新しく始めた支援が、今後どのような変化をもたらすかみていくために、家庭訪問を続けます。

## ヘンさんファミリー

語り：ソック・シハーラさん（母）



\*\*\*\*\*

夫と子ども2人の家族4人で暮らしています。昨年9月、夫と私は2人も洋服や衣類を感染していることが分かりました。それからずっと薬を飲んでいます。ここは1997年に移ってきたが、土地も家もないうために、引越しを何回も繰り返しています。食事は平均すると1日に2回といいますが、学校で給食が出ると聞いてとても嬉しいです。子どもは、「毎日おわがわいた！」と喜んでいます。学校へ通わせたおかげで字が読めるようになったことが嬉しいです。子どもたちは、できれば大学まで行かせたいですね。私たちに財産がないので、自分のやりたいことをやってほしいです。

娘の気づいたこと：  
つらいのでしゃうが泣くと話すお母さんは誰ですか？年生というハシ・ソバナ・ロウには愛想が悪かった。

## チューンさんファミリー

語り：エンディ・イエンさん（父）



\*\*\*\*\*

妻と息子3人の5人家族ですが、この家には他の5家族も一緒に同居しています。私は建設現場で働き、妻は食べ物を買って、その日の収入を得ています。2人合わせて日325ドルくらいの稼ぎです。生活は苦しいですね。ここは2002年に引っ越しました。家のトイレはおほかせんが、他の家族のものも借りています。子どもはよく外创新发展します。仕事のない日は子どもたちを寝かべています。お金がないと子どもは学校へ行かなければなりません。私は学校を出でないために文字が読みません。字が見えないのに同じです。子どもたちに勉強を教えることができないので、その分校でも良くなれてほしいと思っています。自分と同じ道を進まなくて済むように。そして彼らにはきちんと仕事を見つけつけています。

娘の気づいたこと：  
3人の男の子は、土蔵にまみれで遊んでいました。水遊びはあまりしていませんでした。2名の人々が寄り添うように一緒に暮らしていることに驚いた。興くぼろぼの歌をうるさい声で歌ひながら遊んでいました。娘の歌は本当に美しい。それでもお父さんは明るく笑っていました。

## 卒園児の「今」

CYRがカンボジアで保育事業をスタートしてから約15年。子どもたちは、その後どんな道を歩んでいたのでしょうか？ 学校は廃校しているのでしょうか？ すっかり成長した卒園児に会ってきました。

こんにちは、ラチャニーです。

私の家族を紹介します。

お父さん、お母さん、それから人のようだいれいます。

お姉さんは、音楽がノンバンの工場で働いているので家にはいません。

私は、ハングキア中学を卒業して13年生です。

学校から帰るとお風呂敷を食べてお昼寝をします。

放置時は、家事や農業をしたり、市場でお菓子をあつたりするなどのお仕事です。

私の母はお医者さんになります。

カンボジアには友達や英語で話している人がたくさんいるので、助けたいから。

そして、私が働いて、お父さん、お母さんに家をさせたいし、弟や妹にもねと同じように手を貸してほしいです。

以下はラチャニーの写真。東京で開催された国際会議で、彼女が講演をしていました。

カンボジアをはじめとする多くの国で、世界を変える力を持つ女性たちの活躍が注目されています。

\*\*\*\*\*

ラチャニーのお話を聞き、お母さんがいい仕事をしておられたと聞いていました。お母さんの長女もお母さんと一緒に働いていました。これで私もこの職場のことを知りましたが、子どもたちは学校を終わらぬよう向かう夫婦でした。この日、CYRの資料収集で小僧を始めたからか？と聞いてみました。まだ父親を離れて話し合いが必要です。

こんにちは。

私の名前は、コーン。

近くに新しくできたハングキアノ中学校に通っています。

今、2年生です。

学校では、仲良しのなだら3人と休憩時間におしゃべりをするのがとても楽しいです。

授業は社会科の情報だけれど、英語はとても楽しいです。

だから英語をもう少し勉強したいと思っています。

保育園の時間で現役で残っているのは、近くの田舎で販賣りをしました。

母は、大ざまで通って新聞記者になりたい！前にテレビで記者の姿を見たからです。

自分の家も建ててみたいですね。

4. 子どもたちの明日 2007.9 NO.83

ガエン・ラチャニー(16)  
1993年ハングキアノ中学校卒業



コーン・スレイメイ(16)  
1993年フレットウッド保育園卒業



## おりもの

## 「きれいに仕上がる」と嬉しい

シルク製品を越しているのはわたしです。

CYRは、カンボジアのシルク製品を振興して、収益を女性たちへ還元しています。技術を身につけた女性は、大きな力となります。また、収益を支えていくことは、人間としての誇りや尊厳につながっています。経営に取り組みながら現地でがんばっている女性、ウア・チャントラさん、インダビューサさん。



ウア・チャントラ  
さん(23歳)

家族について  
教えてください

私は母親と2人住まいです。父は建設業者のリーダーをしていますが、私が10歳の時に建設現場の事故で亡くなりました。きょうだいは妹が一人います。34歳の母は、結婚してフランスに住んでいます。この間10年ぶりに連絡を取っていましたが、妹が夫の仕事で結婚を離れて夫婦別居になりました。

母は毎朝生活していくと話していました。

織物の仕事を始めたきっかけは何ですか？

私は母の裁縫や、アイロンかけの他、製品の布に合わせてワニナードや内布を市場で買っています。そこでエルモドッケー、猫のマスクを縫っています。

どうなつて仕事をしていますか？

小さいワニナード付きのボーネは、最近注文が多いです。耕(かすり)地と

色合せをするのが、楽しいですよ。新商品は、慣れるまで難しいこともあります。綿のトートバッグは、内袋を縫つたり、別の用意をした細かい作業がとても多いです。だからといって仕上がりが嬉しい。収入は月に100ドル位(※)です。仕事時間は、午前中は8時~12時くらいで、午後は13時~22時頃までです。注文が多くて忙しかった時は、夜中の12時頃まで縫つたこともあります。

※米ドル1ドル=約129.87円

(Cambodian Silk Industry Survey 1999)

食事は母が作つたら、私が作つたします。いつも12時ごろに寝ますが、それまでは本を読みたくなります。時間あるときには、友だちや親戚の家に遊びに行けるのが楽しみです。今、英語を習っているんです。将来は会社勤めをしてみたいと思っています。



## NEWS! •次回、魔物販売会のお知らせ•

日: 12月6日(木)~8日(土)の3日間

場所: ボンナレット

世田谷区新宿3-30-2

(東急田園都市線新宿駅より徒歩4分)

※初日はカンボジア事務係長、岡口栄美による「魔物のお話」を予定

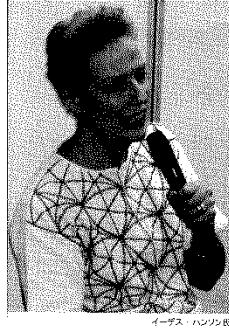
2007.9 NO.83 子どもたちの明日 5



## 対談:

## 「カンボジアの子どもたち」

イーデス・ハンソン氏 × 峯村 里香  
(エフエフカン理事長)  
(CYR事務局長)



ハンソンさん：

皆さんには、まずは私たちの活動を簡単に説明の方いかないかな。

峯村：

CYRは、カンボジアで幼い子どもたちの保育の仕事、女性のための自立支援を行っています。

ハンソンさん：

ユネスコはその仲間なんですよ。ペトナムラオストとカンボジアどちらの教育支援をしてています。カンボジアでは、一緒に保育園の仕事をやってるんですね。けれど、「どうしてやつているの？」ってよく聞かれません？

峯村：

そうですね。CYRは、カンボジア内戦の後、大人たちが生きることに精一杯で子どもたちが危険になってしまう。そんな状況の難民キャンプを訪れた日本の女性たちによって設立されました。

我自己は、当時会社で働いていましたが、「世界には色々な子どもたちがいる」ということが気になっていました。そんな時、CYRでボランティアを始めたのがきっかけです。

その後、スタッフとしてカンボジアで活動をはじめていますが、現地の生活は本当に厳しいですね。その中でも、子

どもたちは一生懸命生きようとしている。そんな姿を見ると励まされましたし、だから成長してくれるという気がしています。

農村に保育所がありますが、もしかしたら子どもたちは本を読むことがないですね。おもちゃを手にすることもない。たとえ提出で小屋みたいでも、子どもたちのことを考える大人がいて、バランスのあるものが食べられる。手洗いを教えてくれる。水浴びをして授業する。全部当たり前のことだけれど、そういうことがとても貴重なんですね。

いません。そういう子が大きくなると、やつぱり同じように思う、「子どもは後回しだ」と。

農村に保育所がありますが、もしかしたら子どもたちは本を読むことがないですね。おもちゃを手にすることもない。たとえ提出で小屋みたいでも、子どもたちのことを考える大人がいて、バランスのあるものが食べられる。手洗いを教えてくれる。水浴びをして授業する。全部当たり前のことだけれど、そういうことがとても貴重なんですね。

2007年7月27日、日本橋高島屋「アジアの手仕事展」に出展したCYRは、特別企画としてイーデス・ハンソンさんをお招きし、事務局長の峯村里香と対談を行いました。

峯村：

カンボジアは、それが難しかった国ですよね。元気いっぱいに遊んで誰かに愛されている感じられます。それが中々難しい。だからこそ保育所で日々流れてい穏やかな時間を大切にしたいと思います。

ハンソンさん：

ブンペイさんは、ものすごいスマートがあるんですね。宿泊施設がないなど住んでいたり、親の手伝いなど忙わっている感じです。親の手伝いなど忙わせる時間が少ないので思っています。

ハンソンさん：

周囲の大人の応援も少しだけですね。親に「この子が本を読める」ということが

た時には、親として良い影響を与えるます。「もっと世の中には可能がある」ということを伝えたい。直接している活動は小さく見えるけれど、影響はこんなにあります。

峯村：

子どもたちが将来の夢を開いたりすると、「お医者さんになりたい」「先生になりたい」となどと言います。私たちの毎日の仕事は本当に小さいんですけど、そんな夢が実現するような社会であってほしいと思います。それが支援を続けることの大変だと感じています。

ハンソンさん：

周りの大人の応援も少しだけですね。カントジの植物には本当に素敵な模様がいつもありますよね。それが勉強できるところもCYRです。

峯村：

そうですね。私たちは、お母さんたちのために織物の技術を学ぶセンターを開いています。女性が何らかの技術を身につけられる这样一个のプラスになります。子育てや家庭の合間に使って家族を支えているということ。そこから人間としての済みや尊厳につながっていくのだと思います。私たちの織物製品を販売して、収益を還元していくといつた活動をしています。

ハンソンさん：

私も類似を見せてもらつたのですけれど、本当に素敵ですね。自分で使ひのいいらしいプレゼントのものもない。しかも、他より割り安い！カンボジアの女性たちを応援する意味でも、気に入ったのがあれば、ぜひ、買ってくださいね。今日はどうもありどうございました。



研修会場

## ●プロフィール●

イーデス・ハンソン氏

イーデス・ハンソンは、9歳まで過ごす。1960年生。デビラ・ラジオなどでタレントとして幅広く活躍する一方、個性的な人権擁護団体「アムネスティ・インターナショナル」特別顧問。妻は「カタコ」英語で十分です」の著者。著書は「女性の権利をめぐる世界のよきとよき」など多数。

峯村 里香

1985年より幼い難民を見る会(以下)勤務。1990年、事務局長就任。1996年、カンボジア事務所長として赴任。1999年、カンボジアapoNPO、事務局長に就任。現在に至る。特定非営利活動法人アムネスティ・インターナショナルモニター幹事。

**国内活動 - ありがとうございます -**

CYR カンボジアプロジェクトは、さまざまな日本の活動に支えられています。

## 企業

東京海上日動あんしん生命保険株式会社  
人事総務部 慶野 久恵 氏

弊社は「次代を担う子供たちを支援します」という社会貢献活動方針に基づき、2003年度より「幼い難民を考える会（CYR）」の支援をさせていただいています。そして、その支援についてでは、毎年弊社の現状を社外の皆様にお伝えする「ディスカウントカード」に掲載したり、社内のニュースで全社の社員に紹介したりしています。

弊社からの寄付は少額ですが、昨年はカンボジアの農村におけるトイレや水道の改修にご活用いただきました。教育所は広く明るく見渡せるきれいになつたそうです。床のござの上ではなく、椅子に座って食事ができるよう机と椅子も置かれ、子どもたちは元気いっぱいに過ごしていると聞き、たいへんうれしく思っています。このような地道な支援が、1人でも多くの子どもたちの笑顔につながるようお役に立てれば幸いです。



フレンドルーム会議

●お知らせ●

写真を買うことが、子どもたちの未来につながる。

第11回「写真家達によるチャリティー展」・寄付先がCYRに決定。

会期：2007年12月14日（金）～12月17日（月）  
午前10時～午後8時まで（最終日は午後2時まで）  
会場：富士フィルムフォトサロン東京（スペース123）※東京ミッドタウン（六本木）  
展示方法：縮径35cm×55cm 作品65ヶ切替 約400点展示予定  
販売価格：10,000円（額券）  
販売方法：即売方式（その場でお持ち帰りいただけます）  
運営：富士フィルム（株）ジャパン  
協力：富士フィルム（株）富士フィルムイメージング（株）  
協賛：（株）フレームマン

～ぜひご来場ください～

CYRの活動をご支援ください

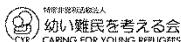
年会費 正会員￥10,000 学生会員￥3,000 団体会員￥30,000

下記の口座にご送金ください。

郵便振替 №00100-9-36227（待合）幼い難民を考える会 銀行振替 三菱東京UFJ銀行六本木支店（普）No.1351747

特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

※CYRは認定NPO法人です。5,000円を超えるご寄付は寄付金控除の対象となります。



幼い難民を考える会  
CARING FOR YOUNG REFUGEES  
〒108-0046 東京都港区元麻布3-2-29 元麻布ビル2F  
TEL: 03-3798-6377 FAX: 03-3798-6389  
Email: info@cyr.ocjp.jp  
URL: http://www.cyr.ocjp.jp

子どもたちの明日 83号

●発行日 2007年9月5日

●発行人・深水正樹